

放送日 令和4年5月2日（月）
担当者 財政課長 亀山 貴宏

おはようございます。財政課長の亀山貴宏です。

私は、北広島市職員としてこれまで仕事をしてきた中で、たくさんの素晴らしい職員と出会ってきました。

先輩や上司に限らず、後輩や新人職員であっても、その働き方や考え方を通して、回りの人に良い刺激を与えてくれる人は多くいます。

もう10年近く前ですが、私は一人の新人職員のサポーター、教育係になりました。ある時、その新人の彼が難しい仕事に取り組んでいるときに、私はその仕事がある程度は形になっていると判断し、もうそれくらいでいいんじゃないかとアドバイスしたことがありました。しかし彼は「ここでやめたら自分が許せないんで」と言い、さらにその仕事に取組み、苦労しながらも、より良い成果を出しました。

もちろん、限られた時間の中ですべての仕事を完璧にすることは難しく、より重要な業務に注力する、効率的に進めていくことは大切なことです。しかし、効率を言い訳にして、途中で諦めたり、手を抜いた仕事をしていなかったかと、私は自分の仕事振りについて考えさせられました。

それ以降、私は、少なくとも自分自身が自分に落胆するような仕事をしてはいけないと思い、手を抜いてしまいそうな時、諦めそうな時には、彼の仕事に対する向き合い方を思い出すことで、もう少しやってみようと考えようになりました。

市役所では多くの方が、十人十色、それぞれの良さを出して仕事をしています。互いを尊重し、学び合いながら仕事をする。それが組織全体の成長を促すことに繋がると思います。

財政課は、予算の編成、執行という面で、事務事業を行うすべての課の皆さんと関わり合いながら、一緒に仕事をしていく課です。

これからも皆さんから学び、私たち財政課も皆さんの良いサポーターとなれるよう取り組んでいきたいと思ひます。

放送日 令和4年5月6日（金）

担当者 環境課長 米村 恒

おはようございます。環境課長の米村です。

環境課では、環境保全やゼロカーボンの推進、ごみの適正処理やリサイクル、霊園や火葬場の管理運営など、幅広い業務を行っています。

私は4月から、新たに課長として環境課に配属となりました。所管する業務の幅が広いことから、課題の内容も大小幅広く様々で、毎日頭をフル回転させながら業務にあたっています。

管理職として、各業務の責任を担うことはもちろん、課の仲間たちの成長を促すことも大切な自分の役割であると考えています。

先日、「子育ては、親育て」という言葉を耳にする機会がありました。無償の愛で一方的な施しをするイメージのある子育てですが、必ずしも思うようにいかない育児を通じて親自身も大きく成長することにつながる、という内容として私は聞いていました。

新任課長であり、二児の父でもある私には特に、示唆に富む言葉として心に響きました。

環境課には年齢やキャリア、個性が様々な職員が15名います。

私が今まで受けてきた先輩職員からの指導助言や、市民の皆さんとの関わりの中で得てきた経験を還元する。そして、課の仲間との関わりや業務を通じて私自身も成長し、環境課を助け合い、磨き合う、しなやかで強靱な組織にしていきたいと考えています。

放送日 令和4年5月9日（月）
担当者 大曲出張所長 小川 大輔

おはようございます。大曲出張所長の小川です。

この4月より、およそ20年ぶりに大曲出張所に勤務することとなりました。出張所の建物は当時と変わりませんが、扱う業務も、そのために使用する書類やパソコンの数も、当時と比べ大幅に増えました。

私は3月まで西の里出張所に勤務していましたので、出張所で扱う業務はおおよそ理解しているつもりでしたが、勤務場所が変わり、書類や端末の場所が変わると思うように窓口対応をこなせないことも多く、日々出張所のスタッフに助けられながら、どうにか1ヶ月やってきたところです。

今後も、市民の皆さんに対し、親切で気持ちの良い対応を心がけてまいります。市役所の各担当部署の皆さんにおかれましても、さまざまなお願いやお問い合わせをさせていただくと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

放送日 令和4年5月10日（火）
担当者 保険年金課長 三澤 聖子

おはようございます。保険年金課の三澤聖子です。

私は、平成4年に当時の広島町に入庁し、今年で勤務30年を迎えます。

30年のうち、3分の1以上をこの保険年金課に籍を置き、子ども医療などの医療給付を担当した8年間は、若い親御さんや障がいを持つ方と多く関わり、また、たくさんの若手の職員とともに仕事をし、業務を伝える事、教える事の難しさを知りました。

国民健康保険を担当した4年間は、主査として様々な市民からの問い合わせに、頭を悩ませ、また、スタッフと連携する事の大成さを学びました。

私事ですが、この課に配属になった12年前、小学1年生だった長男が18才になり、この春、大学に進学しました。12年間で成長した長男のように、私も、この保険年金課で沢山の経験をさせて頂きました。

家庭、仕事、自分の役割は段々と変わりますが、初心を忘れず、最前線で働くスタッフ皆さんが、働きやすい環境をつくれるよう、そして、今の社会保障制度を迅速かつ正確に伝えることができるよう、課の責任者として、気を引き締めて業務に取り組んでまいります。

放送日 令和4年5月11日（水）

担当者 子ども発達支援センター長 高屋 健一郎

おはようございます。子育て支援部子ども発達支援センター長の高屋健一郎です。

放っておいても子は育つと申しますが、自然な学びが難しい子供達がいまます。言葉が遅い、落ち着きがない、友達とうまく遊べない等ちょっと子育てが難しい子供とその子育てに悩む親御さんの相談にのり、その子に合わせた special で丁寧な子育てのコツを提案していく、それが子ども発達支援事業です。

現在は共働き家庭の増加や少子化等で、以前は幼稚園や保育園に通いづらかった子育てが難しい子供達がほぼ 99%程度通えるようになりました。

しかし、集団になじめず自分を発揮できない、集団保育が難しい子供の関わりに悩む先生からの相談が多くなっております。そのため、今では市内 19 カ所の幼稚園等に訪問相談をし、支援者の支援をする地域の子育て支援力 UP に努める内容に重心が変わってきております。

幼児期から子育てが難しい子供の発達を促し、持てる能力を発揮させ、それはまた成人後の生き辛さの軽減や予防にも繋がります。

子供を育てることは、未来の北広島市を育てるでもあります。共に歩み笑顔が輝くまちへ今後もその一翼を担ってまいります。

放送日 令和4年5月12日（木）
担当者 子育て支援部参事 永坂 隆之

おはようございます。子育て支援部参事の永坂隆之です。

今年の4月から就学前の児童とその保護者が利用する1階の地域子育て支援センターあいあいと、放課後と土曜日・夏休みなど長期休校日に小学生を預かる学童クラブ、18歳未満の子どもたちに遊び場を提供している児童センターの業務を担当しております。

今年の新人職員は過去2番目に多い31名が入庁しました。北広島市は団地造成から急成長し、その発展に伴い職員も増員されました。その時の職員が退職を迎えているため、過去5年間で119名が入庁しており、職員数484名の約1/4を占めています。

経験は仕事をする上で重要な要素を占めていることから、北広島市は職員の年齢構成という面からも重要な局面を迎えていると言えます。

しかし、経験が少ない人員で構成されていても、行政サービスの質を落とすことはできません。職場内で早く仕事を覚えること、つまり経験値を上げることが重要です。

担当している自身の業務は自然と身に付きますが、隣のスタッフが担当している業務、役職の違っている担当の業務などは意識がなければそうはいきません。短期間で効率的に仕事を身に付けるには、そのような身近な情報も貴重であると考えます。そう考えると隣同士など近くのスタッフ間、課内間での情報交換は重要ですし、要点をまとめ、相手にどう伝えたと聞いた人の経験値を上げることができるかを考え実行すると、双方にとって有意義な時間につながると思います。

私は話下手を自負しているので、そのようなことを意識して若い職員とともに成長し、さらに職場内で自由に話し合いができる環境を作っていけるよう努めていきたいと考えます。

放送日 令和4年5月13日（金）

担当者 すずらん保育園長 土居 恵美

おはようございます。すずらん保育園の土居恵美です。

私は、3月まで地域子育て支援センター「あいあい」で4年間、主任保育士として勤務しました。異動前は市役所の組織やその業務内容について、また「あいあい」の業務についても無知と断言していいほどでした。そのような状況での異動で、とにかく仕事を覚えるため、前年度を参考に例年どおりの仕事を行いました。

ある時、例年どおり行なっていた業務についての説明を求められることがあり、きちんと説明することができませんでした。それは、目的や意図を自分で理解していなかったからです。

そして4月、保育の現場に戻り、行なっている保育について、きちんと説明ができるのだろうかと考えた時、不安を感じました。計画を立て、実行し、反省点があれば改善していますが、本来の目的や意図を職員で確認することはなかったように思います。

あたりまえに行なって何も疑問に思わず仕事をしていることがたくさんあるのではないかと感じたため、子どもにとっても、保護者にとっても、働く保育士にとっても、魅力ある保育園にしていくよう、あたりまえを見直し、保育をもっとよくしていきたいと思っています。

放送日 令和4年5月16日(月)
担当者 建築課長 吉岡 亮

おはようございます。建築課の吉岡です。

私は来年の3月末に定年退職を迎えます。在職期間も残り1年を切っています。平成元年に採用され、30年以上を北広島市役所にお世話になっています。

今、この職場には、私の子供よりも若い職員がいます。私が若い頃は、仕事の内容がよく分からず、業務量が多かったせいか、がむしやりに業務をこなしていたような気がします。ただ、業務をこなす上で、その内容を分かってする場合と分からないでする場合では違うと思います。

市役所の仕事の多くは何らかの法律や条例等が根拠となっています。その法律や条例等が何なのかを知るだけでもだいぶ違うと思います。分からないこと、疑問に思うことは先輩職員にどんどん聞いて理解してもらいたいと思います。先輩職員も若手職員から疑問点を聞かれることが嬉しく感じるものと思いますし、それが職員同士のコミュニケーションにつながるものと考えます。

私の職員としての任期は残り1年を切っておりますが、若い職員が質問しやすい先輩職員になりたいと思います。

放送日 令和4年5月17日（火）

担当者 土木事務所長 北口 馨

おはようございます。建設部土木事務所長の北口馨です。

土木事務所は主に道路や河川、北広島駅につながる東西連絡橋の維持管理、そして冬には除雪を行っております。

市内の道路は、国道は北海道開発局、道道は北海道の建設管理部、市道は土木事務所が管理していることをご存じかと思えます。

一般的な地図を見てもわかりませんが、河川についても国や北海道が管理している区間があります。

市内には36の河川があり、市のホームページの統計データから河川の一覧を見ることができますが、多くの方にとってはその半分以上がどこにあるのかもわからない名称の河川かと思えます。

河川は大雨が降った時には警戒が必要な危険な場所となりますので、是非名前や場所を覚えていただけたらと思えます。

現在土木事務所は建設中のボールパークの真横にありますが、来年の秋頃までに中の沢へ移ることになっており、移転先での建築工事も始まっております。

僅かな期間だけですが、勤務後に職場の目の前にある施設でプロ野球の観戦ができるということを今から楽しみにしております。

放送日 令和4年5月18日（水）

担当者 下水道課長兼アクアバイオマスセンター長 藤本 悟

おはようございます。下水道課長兼アクア・バイオマスセンター長の藤本悟です。

この4月から5年ぶりに下水道事業の業務に携わることとなりました。下水道課では下水道管の設計・施工や維持管理、下水処理施設の設計・施工、アクア・バイオマスセンターでは下水処理施設の維持管理や運営が主な業務となっております。

今年は北広島市が下水道の建設に着手し、北広島団地内の一部を供用開始して50年を迎えます。下水道管の法定耐用年数も50年ですので、今後はこれら耐用年数を経過した管が増加していきますが、すぐに使用できなくなるわけではありませんので、計画的に調査し、今後も延命化できるのか更新が必要なのかを総合的に判断して行っていきたいと思っています。

また、アクア・バイオマスセンターや各地区にあるポンプ場の機械・電気設備の耐用年数は概ね10年～20年程ですので、既に更新時期を迎え、老朽化により劣化の進んだ施設等から順次更新してきています。今後も故障等により市民生活に影響が出ない様、計画的に進めていきたいと思っています。

昨年、下水処理センターから名称を変更したアクア・バイオマスセンターについては、近年多くの職員が新たに入庁され、知らない方もいると思いますが、この施設は通常の下水処理に加え、バイオマス利活用を目的に平成23年度から生ゴミの、平成25年度からはし尿の受入れをしています。この生ゴミ受入れ施設としては、国内2例目、家庭用の生ゴミを受入れした施設としては、国内初の施設となっております。これまでに全国から多くの各種団体の方々が視察に訪れている施設です。現在は汚水処理と生ゴミ、し尿の3種類による汚泥を肥料として100%緑農地へ還元しています。年間約650tの肥料が生産され、そのうち60t程は、毎年1回4月中旬に「あしるのめぐみ」という名称で市民向けに一般販売しています。この肥料は、葉物野菜や花植えなどに適していますので、まだ購入されたことがない方は来年になりますが是非、検討してみてください。

放送日 令和4年5月19日（木）
担当者 教育支援課長 澤井 大輔

おはようございます。教育支援課の澤井です。

教育支援課は、今年度新設の課であり、不登校やいじめの対応、特別支援教育など様々な悩みや特別な支援を要する子どもたちの切れ目のない支援の一層の強化を図ることを目指し、事務事業を進めています。子供たちの要する支援は、多様化しており、部局を超えた連携をお願いすることがあると思います。その際はよろしく願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症の対応が長引く中、市民の皆様や職員の皆様も、様々な我慢をする日々が続いていることと思いますが、子供たちも、我慢をする日々が続いています。力いっぱい大きな声で交流することや、学校行事、部活動が縮小されるなど、思い描いていた学校生活を送ることができないことによる不安などを理由に、生活が乱れたり、自信を失い学校に通えなくなる子供が増えています。こうした中、各学校では、様々な工夫により魅力ある学校づくりを進めていますが、地域全体で子どもを育むことも重要といわれています。教育支援課では、子供たち一人一人が、自らがかけがえのない存在であると気づけるよう、自立した一人として認め、勇気づけるなど、学校と家庭、地域が一体となって子どもたちを育む、地域の未来を担う子供たちを地域で育む、そのような地域づくりの一翼を担えるよう努めてまいりたいと考えています。

放送日 令和4年5月20日（金）

担当者 警防課長 矢村 祐介

おはようございます。消防本部警防課の矢村です。本日は、今年2月に発生した大雪への対応の際に、私が改めて感じたことについてお話をさせていただきます。

2月の大雪の際、市民の方から「大雪の影響で玄関ドアが開かない。」
「ストーブの排気筒が埋まりそう。」等の相談が二十数件消防に寄せられました。このような相談に対しては、可能な方には自助互助での対応を依頼し、緊急度が高いと判断される事案には消防職員が出向いて対応にあたりました。これらの相談を受けた際「困り果てて最終的に消防へ連絡した。」と言われる方が多数いらっしゃいました。当たり前のことですが消防は市民の方から頼りにされる職種であり、それこそが消防の存在意義であると考えています。その信頼に応えため、限られた消防資源で最大限の成果を上げることができるよう消防全体の能力を向上させ、安心・安全の提供という市民サービスのより一層の充実を目指していかなければならないと改めて感じました。

今年度、北広島市は大きな転換期を迎えます。職員一人ひとりが自らの役割と責任を理解し、それぞれが持つ業務の趣旨を的確に捉えて業務にあたっていきましょう。

放送日 令和4年5月23日（月）
担当者 救急課主幹 柴崎 啓仁

おはようございます。消防署救急課主幹の柴崎です。

今年度より12年振りに救急隊に復帰、若い隊員の知識や技術に支えられ変化する救急現場活動に対応しているところです。

今日の救急出動件数は「高齢傷病者」「熱中症傷病者」「緊急性の低い傷病者」の要請件数が要因となり全国的に増加しております。

当市も高齢化の進展により、過去12年前より18.7%上昇、市の将来推計を踏まえると更なる増加が懸念されております。

また、本年度はボールパークの開業により、多くの人々が集い交流を育むことが見込まれ、救急需要が高まるものと予想されます。

このため、救急体制の強化策として救急隊の増隊及び人材育成を課題に掲げ、救急救命士資格者を数多く採用いただいております。

しかし、救急隊員には冷静な観察力や判断力、患者や医師とのコミュニケーションスキルが必要であり、救急隊の知識・経験・チームワーク力の習得が求められます。

これにより、若年層の人材育成をスピード感をもって対応し、救急業務全般の質の向上を図ることを目的に指導・指導的救命士を養成し教育指導体制を構築したところです。

また、救急隊は非常用を含む3台から4台体制に拡充する計画とし、高規格救急車の寄贈を受け配備することとしております。

本年度は消防全体として大きな変革期であり、多くの課題を整理していかなければなりません。救急体制の万全を期し市民や来訪者の安心・安全を守るため、着実に取り組みを進めていきたいと思っております。

放送日 令和4年5月24日（火）
担当者 救急課主幹 鈴木 皇輝

おはようございます。本年4月より救急課主幹を拝命しました鈴木です。

平成9年に救急隊員の資格取得後、今年で救急25年目にあたります。この間、救急出動件数は一昨年の新型コロナウイルスの影響で減少した年を除き、高齢化の影響もあり右肩上がり増加を続け、昨年は2,182件の対応を致しました。今後は北海道ボールパークの開業により年間3,000件程度にまで救急件数が増加すると予想しております。

これに対応するため、当消防署では救急隊1隊の増隊を予定しており、救急車の新規導入、救急隊員、とりわけ救急救命士の養成が喫緊の課題となっております。昨年度に救急救命士を指導する指導救命士認定のため、消防大学校へ派遣していただき研修を受けてきました。その中に教育技法の講義があり、「教育」とは経験することでできなかったことができるようになること。と学びました。そして「すべての人が【必ず伸びる】と信じて指導に当たりなさい」と教わりました。当救急課は若手の救急救命士が多く配置されていることから、「必ず市民の安心・安全を守れる救急救命士に成長する」と信じて教育指導にあたりたいと考えています。さて、新型コロナウイルスの影響が長期化しており、救急要請を受けても搬送先が無いことも増えています。「マスクの着用」など基本的な感染防止行動を徹底し、再拡大防止に努めましょう。

放送日 令和4年5月25日（水）
担当者 消防課主幹 川村 耕治

おはようございます。消防主幹の川村耕治です。

市民が期待する消防の活動は人命救助や消火のイメージだと思えますが、もっと別の分野でも消防の機動力やパワーを生かした市民サービスができないか日々思いを巡らせています。

今年から80歳以上のお一人暮らしの高齢者宅に防火訪問を始めます。消防の機動力を生かして「お元気ですか？」の一声で訪問して体調不良や困っていることなど対面でお話しし、必要があれば福祉部局と情報を共有していきます。横の連携を強固なものにして市民、その家族が北広島市に住んでいることに対して安全・安心を覚えることができるよう一役買いたい所存です。消防が新たな分野で市民サービスの向上に貢献できることがもっと他にないかアンテナを高くして様々なアイデア・発想を積極的に考えていきたいと思えます。

消防はBP開業に向けて職員増や資機材整備などの体制強化を図っています。ぜひそのことが消防活動に限らず幅広い分野において市全体、市民にとって有益になっていくことを切に願って活動してまいります。

放送日 令和4年5月26日(木)
担当者 秘書課主査 竹内 大樹

おはようございます。総務部秘書課の竹内大樹です。

新人職員の皆さんは、入庁して2ヶ月が経過しようという頃ですが、職場の雰囲気には慣れてきたでしょうか。

突然ですが、私には2歳の息子がおりまして、以前、保育園で学んだのか、「こんにちはー！」と元気よく挨拶してくれたことがありました。言うまでもなく、某お笑い芸人のネタを真似してるだけなのですが、明るく元気の良い挨拶は、聞いててポジティブな気分になさしてくれます。

さて、そんな「挨拶」に

ついてですが、当たり前ではありますが、人間関係を築くうえでとても大切なものです。コミュニケーションの基本中の基本とも言えます。「たかが挨拶、されど挨拶」です。

挨拶することは、単純で簡単そうに見えますが、「ちゃんとできてるか」と問いかければ、皆さんはどうでしょうか。

新人職員は先輩職員の姿を勉強して、職場の雰囲気に慣れていくものです。そんな新しい変わり目の時期だからこそ、私たちも普段の「挨拶」について、その大切さを見つめなおす必要があるのではないかと感じます。私もこの機会を活かし、できるだけ好感度の高い挨拶ができるよう心掛けていきたいと思えます。

放送日 令和4年5月27日（金）
担当者 税務課主査 小畑 佳祐

おはようございます。税務課資産税土地担当の小畑です。

現在の固定資産税は、例年と比べ特殊な状況にありますので、本日はそのことについてお話させていただきます。

まず、昨年度は、3年に1度の評価替えの年でした。通常であれば路線価の上昇があった場合、税額算出の基礎となる課税標準額も上昇することとなりますが、新型コロナウイルスにより社会を取り巻く状況が大きく変化したことを踏まえ、税額が上昇する土地については前年度の課税標準額に据え置く特別な措置が講じられました。そのため、令和3年度で変わらなかった土地の税額が、令和4年度では増加している場合があります。

また、ニュースでも話題となりましたが、近年では市内の土地の公示価格が増加傾向にあり、次回の評価替えの年である令和6年度以降については、土地の評価額に影響があることが予想されます。ただし、負担調整措置の制度適用により急激な税額の上昇は軽減されることとなりますので、あらかじめご理解いただければと思います。

市の主な財源となる税金は、市のサービスを支える根幹となりますので、納税者の方々にとって納得できる課税であるよう適切な業務に努めて参りたいと思います。

放送日 令和4年5月30日（月）
担当者 都市整備課主査 久保田 順矢

おはようございます。建設部都市整備課の久保田です。

私は主に道路整備に係る業務を担当しており、先日、入庁してから2度目となる会計検査を受検しました。道路整備に関する検査では、幅員や厚さについてよく質問されます。今回も幅員についての質問がありました。

この質問が多い理由は、本州の道路に比べ幅員、厚さともに大きい傾向があるためです。皆さんも北海道の道路は広いと感じたことがあるのではないのでしょうか。

なぜ本州の道路と構造が異なるのかというと、北海道は積雪寒冷地であるため、堆雪スペースの確保、凍上対策が必要となるためです。北海道においては基本的な考え方になりますが、本州ではそうではありません。会計検査では、このような基本事項について質問されることが度々あるので、当たり前と思っていたが故に回答に困ることがないように、事前に想定質問を考え検査に臨むようにしています。

日々の業務においても、当たり前、基本事項と片付けるのではなく、どんな相手に対しても適切な回答、対応ができるよう心掛けたいと思います。

放送日 令和4年5月31日（火）
担当者 市民課主査 横井 秀年

おはようございます。市民課の横井です。

今年の4月、6年間在籍した行政管理課を離れ、市民課の戸籍住基担当に着任しました。

市民課の戸籍住基担当は市役所の顔とも言える部署であり、市民の方が2階から来られた時には、一番最初に接する場所でもあります。

市民課の業務においては、これまでは各出張所とのやり取りが多かったですが、今後は様々な部門との連携が重要になると感じております。

この部門間の連携で大事なことは、多くの職員が「つながり」を持つことであり、その「つながり」のきっかけは同期であったり、同じ部署で働いていた経験があったりと、人となりが分かる関係を作ることが大事であると考えます。小さな「つながり」から、最終的には全ての職員がつながれるような状態であれば、様々な課題に対応することが出来ると考えます。

今年度市民課では、コンビニ交付の導入が重要課題としてあり、市民の利便性の向上や市民の笑顔を目的として進めておりますが、サービスの開始には各部門との連携が必要となっております。市民課や各出張所だけでなく、同様に証明書を発行する税務課、システム導入の取りまとめである行政管理課、条例規則改正や会計処理の相談をしている総務課や会計課とも連携を図っている所であります。

今後もこのような課題への対応のためには、より一層、他部署との調整が必要と実感しているところであり、相手への伝え方等について考えながら取り組んでいきたいと思っております。